



ロゴマーク デザイン学部メディアデザインコース1期生 木村 尚史



岡田 大岬 「霊脩」 楚の詩人「屈原」の詩から

## 特集 「共生共存」

### 続 図書館・再考

札幌市立大学附属図書館長 中原 宏

### 寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す

札幌市立大学看護学部・看護学研究科 猪股千代子

### 共生共存

札幌市立大学デザイン学部・デザイン研究科 小西 敏正

### 少し離れてみれば共に暮らせない人はいない

札幌市立大学看護学部・看護学研究科 山本 勝則

### デザインから思うこと

札幌市立大学デザイン学部・デザイン研究科 吉田 和夫

### 共に在る

札幌市立大学看護学部・看護学研究科 菊地ひろみ

### 乙女の祈り

札幌市立大学デザイン学部 松井 美穂

### おむすびで、縁むすび

札幌市立大学看護学部 吉川由希子

### 学生の本にまつわる話

### カウンターの内側からの紹介図書

### 附属図書館貸出・視聴ランキング

### 図書館情報

札幌市立大学  
附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

筆者紹介

空間デザインコース・教授。専門は都市計画。「人がまちを創り、まちが人を創り育てる」が信条。人口減少時代のまちづくりの新しい計画理念や手法を研究し、成果を実際のまちづくりへ展開している。趣味はクラシックギター（演奏および音楽研究）。多彩で美しい音色の織りなす世界の創造は、まさに「まちづくり」そのものである。

札幌市立大学附属図書館長 中原 宏



新聞を読まない若者が増えている。インターネットやテレビで十分な情報が得られるというのが理由である。とりわけインターネットは国内外からの情報を容易に入手できることに加え、速報性が高く、常に最新情報に更新されていく。大変便利であるが、価値のない情報や、不確かな情報も数多く含まれている。

また、テレビは情報を十分に咀嚼する間もなく、一方的に情報が提供されてしまうことが多い。短時間で知識が豊富になったような気がするものの、実は思考していないので知恵は増えない。加えて、映像主体であるため、情景を想像する力が育成されにくい。

新聞を読む意義は、単に社会の出来事や、地域・生活の話題を知ることだけではない。それらの記事や、論評、コラム等の多様な文章をじっくり読みながら、自身を取り巻く世界を常に考えることにある。「読む」ことの意味には理解することのみならず、深い意味を察知する、将来の動きを洞察することも含まれている。つまり、読むことは熟慮し、洞察することであり、まさに生きるヒントを発見する行為でもある。

新聞同様に、本離れも加速している。本を読まない若者が増えている。インターネット検索で必要な情報は得られると信じている。しかし、インターネットの世界では、プロが綿密に調べ上げ、思考を重ねて発信する価値ある情報も、素人が発信するいい加減な情報も差別化ができない。これに対し、新聞や本は、価値ある情報を選別して出版している点が

特筆される。いわば情報の信頼性や質の高さを保証している。

新聞離れ、本離れの背景には、情報収集に手間やコストをかけない風潮がある。しかし、真の情報は無料ではない。価値ある情報に代価を払う姿勢が求められる。しかも、情報は収集するだけでは意味がなく、活用してこそ真価が発揮されるものである。

インターネットや電子書籍が優れたメディアであることは論を俟たない。一方で、紙媒体という特異性を持った本や新聞も、また優れたメディアである。両者の共生・共存のためには、それぞれの特長を熟知するとともに、目的に応じて積極的に使い分ける視座を持つことが肝要である。



2011年7月1日にH大学の図書館新棟が落成し、その記念式典と内覧会に筆者も本学図書館長として参加した。この新棟での話題は、ラーニング・commonsと自動書架システムの導入である。

このうち、自動書架システムとは、ユーザーが検索・請求した図書を、コンピュータ制御の無人方式により、50万冊の図書を収蔵する大規模書庫から取り出し、迅速にカウンターまで運搬するシステムである。林立する高層書架群に設置された軌道上を、図書を積んだ多数の小型台車が、猛スピードでネズミのように駆け巡っている。検索・請求から図書受け取りまでの所用時間は僅か3分である。しかも、閲覧後の図書を司書が別のワゴンに入ると、再び機械を用いた無人方式で、以

前とは全く別の書架の違う段に収納されていく。

すなわち、従来の図書館は図書を厳格に分類し、その分類別に整然と収蔵するシステムを基本としていた。しかし、自動書架システムは、分類という呪縛から図書を解放し、ランダムアクセスを可能にした。まさに、図書を特別視せず、発想を転換し、貨物と同一と捉え直すことによって実現したことに関心せざるを得ない。

内覧会終了後の交流会会場で、筆者と同様に招待された某大学図書館長に、自動書架システムについての感想を訊ねてみた。すると、その方は、「あれは書庫とは呼べないのではないか。書庫とは、本を1冊1冊手にとって、頁を括りながら思考する場所であり、目指す本以外の本との新たな出会いの場でもある。そのような感動がない。」と冷やかに話されたことが印象に残る。



イラスト・メディアデザインコース3年 河原美由紀

## 特集 共生共存

# 寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す 生(スピリチュアル)を ささえる ケア

札幌市立大学看護学部・看護学研究科 猪股千代子

筆者紹介  
看護管理学領域・教授。安全で質の高いケアシステム・看護サービスマネジメントなど、ヘルスケア向上のシステム設計・開発・検証について探求している。ケアする人・ケアされる人の自然治癒力を高める保健医療福祉の環境設計や統合医療を推進する活動を行っており、とくに「ハマナス・音楽&看護療法研究会」の実践活動は、大きな成果を上げている。

今日の医療・看護の実態は、医療機器に囲まれた業務処理に追われ、多くの市民が遭遇している核家族のための家族間の健康支援の不足や孤独死の問題などを含め、生と死について患者に寄り添って考えることが少なくなっていないだろうか。そして、人間は自然の一部という感覚が希薄化していないだろうか。思いやりの関係性が薄くなっていないだろうか。経営優先の意識が、身体の治療が終了したら、医療職のお手当も十分に受けられないまま、患者は自分の力で治すものというメッセージを我々は暗に発信していないだろうか。そして、看護師はケアを委譲している補助者と介護者を、十分に労い擁護しているだろうか。

「共生共存」という言葉から私は直に「統合医療」の考え方で、2008年から取り組んでいる「ハマナス・音楽&看護療法研究会 (HOKT123)」での人々との関係性を想起した。本会は、医療従事者と音楽療法士やアロマセラピスト、ヨーガセラピストなどの人材の統合と新しい方法論(代替療法)の統合を目指している場である。参加者は、神経難病患者、特にパーキンソン病や脊髄小脳変性症の方が大半を占める。

現行のヘルスケアシステムにどのようにすれば安全で、患者のニーズに即し、質が保障された自然治癒力を高めるケアを提供できるのかの視点で、プログラム作り、実践、効果の評価までを研究的に行っている。時に、看護学生などの教育の場となり、健康づくりのための市民との交流の場となり、保健医療福祉職の人々に統合医療を知って頂く場となっている。

徐々に地域に広がり、管内の施設、グループホーム、病院、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション等に勤務する、医療・保健・介護職と行政の福祉関連職員が、勤務終了後に参加し、今後、ケアに活用したいという発言が聞かれている。最近では札幌市から、「認知症の介護をしている男性介護者の集いの会」に、癒しの時間に音楽療法を取り入れたいと相談もあり、なんとか市民レベルに広がるとうれしいと思っている。

実践・教育・研究を通し、真のチーム医療のありかたをセラピストや患者との関係性から学んでいる。また、ケアリングとは何か、癒しとは何か、健康とはどのような状態を表すのか、スピリチュアリティを育むケアとはどのようなものかなど、新しい知識の創造活動にも携わることができている。

この会への参加者(患者・看護職・セラピスト)に対するインタビューによる研究から、この場は、「寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す生(スピリチュアル)を支えるケアが繰り広げられ、生命が響きあい、生きていく力を強めていることが導き出された。患者は、身体症状改善や患者同士の交流を期待し参加した結果、「意識の拡張や霊的成長」をもたらし、「生きられる工夫」や「養生法」そして「愛他精神」が育まれていた。一例として、「価値観に見合った場との出会いにより病気や加齢に屈せず前進するA氏」、「人と交流する場の提供により、健康の調和がとれたB氏」、「自己のパターンを認識し意識や行動が広がり続けるC氏」など、生き方の変容が明らかになった。

看護職は、代替療法の知識や技術不足

の中でチームの役割が見いだせない状況であった。しかし、ナイチンゲール精神の原点に立ち返り、「ケアリング、ヒーリング実践」をとおし、あらためて看護の価値を再確認できた。「思いやる心を交流しあう行為を通して得られた、生命に対する畏敬を共有する」ことが、毎回頭れ、感動的である。そして、他の保健医療福祉職へ、新たな考え方のケアの価値を発信する力が蓄えられているようである。

セラピストにとっては、患者さんの「多様なニーズに応える癒しの技術を洗練する機会」となり「実践能力の向上」をもたらした。

人間は、自分のためだけに生きていこうとすると、時に心が折れそうになるが、自分を気遣ってくれる人のために、他者のために生きようという意識が働くと、思いもかけない力が湧き出し、生きられる術を見出す。

今、執筆を終えるこの瞬間、多くの皆様の笑顔でこころが満たされています。人々が繋がる“お世話・手当”の役割を頂いたことに感謝を申し上げます。



イラスト・メディアデザインコース3年 小比類巻郁恵

札幌市立大学デザイン学部・デザイン研究科

小西 敏正

筆者紹介

宇都宮大学名誉教授。宇都宮大学工学研究科教授を経て2012年4月から空間デザインコース・特任教授。建築のつくりかたのシステムである建築構法を研究。最近では歴史的建築物の保存のための構法の研究に取り組む。その活動は社会に広がりNPO大谷石研究会理事、NPOまちはなネットワーク副理事、とち木〆の会会長、中野たてもの応援団団長などとして活躍中。



イラスト・メディアデザインコース3年 笠谷 奈央

今日、共生共存が特別な意味を持つのは、地球が狭くなり生物の多様性が危惧される中で、人間の存在価値が問われるからではないか。人間がいなくなれば全てうまくいくとはできるだけ言いたくない。

我が家にネズミが棲みついている。冷蔵庫の下が本拠地らしく、そこを中心に歩く、脅かすと駆け戻ったり、ライティングの下などに逃げ込む。冷蔵庫の周りを囲ってネズミ取りを仕掛けたり、兵糧攻めにしてみたが一向に動じない。ある時、造り付けの下駄箱を開けて愕然とした。木くずが散乱し、裏板に穴が空いている。ネズミの作業らしい。冷蔵庫の裏にもライティングの裏にも穴が開けられ、家の中の見えない部分にネズミの独自の通路が構築されていた。

SF映画で、エイリアンが空調ダクトや配管のスペースから人間に近づいたり、ダイハードの主人公ブルース・ウィリスが、ビルの中や空港で設備空間を動き回るのは、建築家の目で見てもかなり上手に考えられている。レイヤーが違い見えないのだが透かせて見れば重なっている。

ネズミは居心地の良い空間と餌を提供されるが、人間の方はネズミがかわいくて心が癒やされるという人は別にして全く得るところがない。確かに生物学という共生の中には片利共生というのも含ま

れる。寄生ともいい人間で言うとヒモのことらしい。人間とネズミの場合、ある程度、昼間と夜で棲み分けている。時間や、場所で棲み分けることもよく行われる。生物学的に共利共生は、「異種の生物が、行動的、生理的な結びつきを持ち一所に生活している状態」というから、場所で棲み分けるのは共生とはいえないかも知れない。例に挙げた映画の場合は確かに重なり合っているわけだが、単に敵対して共生ではない。そこへ行くとご存じの方もおられると思うが珊瑚と褐虫藻の共生には感激する。

人間と他の生物との共生共存、人間相互の共生共存があるが、前者については西欧がやってきたように人間がコントロールすれば良いと考える限り難しいが、元々日本人は、自然と共存してきた長い歴史がある。後者は異種の生物ではないから正確には共生の問題ではないかも知れないが実に難しい。

様々な民族が居て国家がある。それらが散らばって棲み分けていた。経済や交通手段などの発展で地球が一所になって単純な棲み分けができなくなってしまった。人間の方も一つになってしまえば良いのかも知れないが、それには時間も掛かるし、必ずしも良い方向だとは思えない。

人間は我を張り、特別な相手とは絶対

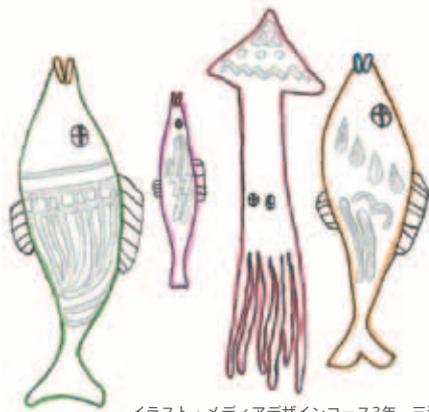
に共生共存するのがいやだという。個人は当然として国家、民族間にもいえる。絶対にいやだと思っているものをいかに共生共存させるか、そこを除いて、その他が共生共存すれば良いのかなど、選択をせまられる。

共生共存を望まない理由として、主義主張、信仰、遺恨、嫌悪感などが挙げられる。これらは単にそれだけでなく、人間の際限の無い金銭欲、支配欲、独占欲などと複雑に絡み合って共生を困難にする。

アフリカの草原には肉食獣と草食獣がともに暮らしている。草食獣にとっては種を適正数に保ってくれるとしても水と餌以外に一緒に暮らすメリットは実感できないだろう。肉食獣は、食欲を満たすとそれ以上は殺さない。それは食欲が有限だからだと考えられる。人間の欲は多様で限度がない。無限に拡大する。従って、人間同士の共生、自然との共生も難しくなる。無制限な欲望を制限し有限化する知恵が共生共存を可能にするのではないだろうか。可能になればその後は空間デザインの問題かも知れない。それができないならばやはり人間がいなくなった方が良く他の全ての生物からいわれなくてもしょうがない。

## 特集 共生共存

# 少し離れてみれば共に暮らせない人はいない



イラスト・メディアデザインコース3年 三沢 可奈

札幌市立大学看護学部・看護学研究科

山本 勝則

筆者紹介  
精神看護学領域・教授。複雑な世の中における自己理解、他者理解を研究している。臨床経験が長く、現場での貴重な体験をなまりのあるあたたかい言葉で紹介してくれる。また、ソフトな物腰で受容されるため、仕事上の問題や人間関係に困ったときには相談に行きたくなってしまう。学生のメンタルヘルスや自殺予防の相談にもってくれる。

イタリアの精神保健の有名な motto に「近づいてみれば誰一人まともな人はいない」(Da vicino nessuno è normale) というフレーズがあると、松嶋健さん(2010)が紹介しています。

この言葉を初めて聞いた時は、イタリアの人たちは随分過激なことを言うもんだと思いました。ところが、徐々に、この言葉に惹きつけられるようになって、近頃では、何かの拍子にふと思ひ浮かべている自分に気がつくようになりました。

誰でも、自分の回りを見回してみると、ちょっとうまくいかない人、変わった人、いわゆるゆるこまうたちやちゃんなど、付き合いにくい人たちがいます。反対に、頼りになる人、器用な人、立派な人も必ずいます。

これらの人たちと、付き合いが長くなると、最初に見えていた面と違う面が見えてきます。付き合いにくい人や、とても一緒にはやっていけそうもないように見えた人が助けてくれたり、心安らく態度を見せたりします。もちろん、印象が大幅に変わるわけではありません。黒からダークグレイ、ダークグレイからグレイ程度の変化です。一方、素晴らしい人たちも、それなりに付き合いにくい面が見えてきます。これも、白からライトグレイ程度のわずかな変化です。白黒反転等ということはほとんどありません。

こんな目で見ると、周りの人は、「付き合いやすいが触れたくない面を持った人」～「付き合いにくい何が何とかなる面

も持った人」の幅に収まってきます。さらに、この幅に含まれる人一人一人が、その時々で付き合いやすさや、変わっている程度が変化します。つまり、真っ白い人や真っ黒い人はおらず、灰色の濃さが違うだけです。しかも、色の濃さは刻々変化します。

精神障害者と呼ばれる人たちも、長く付き合ってみると、この幅に収まります。一般の人は、精神障害者というと、付き合いきれない人たちだと思うかもしれませんが、しかし、意外にもそんなことはないのです。精神科のベテラン看護師に本音を聞くと、気の合う患者さんがいて「どんなに具合の悪いときだってあの患者さんとは、何とかつきあえる」と自信を持っています。それは患者さんの側からも同じことで「明日は誰が勤務なの」と聞かれたりします。「明日も私だけ何があるの?」と聞き返すと、「じゃあいいや」と返事します。つまり、私には相談しても役に立たないと見切ってしまうのです。

人気者になる患者さんもいます。私が病院に勤めていたころの話です。20代前半の男性が入院してきました。眉をしかめ、落ち着きなく歩き回り、訴えが多く、ひどく混乱していました。外来からの情報では、精神障害と知的障害との重複障害ということでした。これは厄介なことになると覚悟しました。ところがすぐに思い込みだとわかりました。人柄が良すぎて、彼が病棟で起こすトラブルが気にならないのです。あっという間にみ

んなの人気者です。何度か入院しましたが、いつもそうでした。退院の都度、看護師は「うれしいけど寂しい」と言っていました。反対に、病状は治まっても付き合いにくい人もいます。つまり、精神科の病院の中で生じる人間関係と、外で生じている人間関係とは大差ないのです。

イタリアの人たちは、この点に注目し、それなら病院に収容しておく理由はないと考えて、精神科の病院を閉鎖してしまいました。

しっかりしている人は出来過ぎ、こだわり屋さんは細かいことが正確、信頼できる人にはつい頼ってしまう、頼りにならない人は自信を持たせてくれる、一方的な人については陰口を言い易いからストレス解消になる、みんな一長一短です。うまく切り抜けて、気持ち良く共生共存していきましょう。「離れてみれば誰一人共に暮らせない人はいない」

松嶋健(2010)海外通信(第6回)

近づいてみれば誰一人まともな人はいない --〈危機〉に〈みんな〉で対処するイタリア地域精神保健

### お勧めの図書

病める心の記録：ある精神分裂病者の世界 / 西丸四方著  
中央公論社 1968 (中公新書)

ミラーニューロン / ジャコモ・リゾラッティ、コラド・シニガリア著 ; 柴田裕之訳  
紀伊國屋書店 2009

筆者紹介

メディアデザインコース・教授。視覚デザインによるビジュアル・アイデンティティ形成を研究。視覚伝達デザインの視点からVI計画・広告企画等を中心に授業を展開。札幌スタイルデザインや円山動物園サインなど公共機関等のデザイン制作を学生と共同で行うなど実践的なデザイン教育を行っている。日本雑誌広告賞「通産大臣賞」、織研流通広告賞「金賞」、屋外広告物コンクールなど受賞多数。



イラスト・メディアデザインコース3年  
小比類巻郁恵

特集 共生共存

## デザインから思うこと

### 共生とは？

某日、T先生が私の研究室を訪れ、「共生共存」について何か書いてほしい旨依頼されて深く考えずに安請け合いをした。しかし、あらためて書く段になって「共生」という言葉の使われ方の多様さに困惑気味である。

生態学の教科書によると、2種類の生物の関係性は、捕食関係・寄生関係・競争関係・共生関係の4つに分類されている。ただ、通常、我々人間の社会において捕食関係というのはどうもあたらない気がする。また、寄生関係をどう捉えるかも微妙なところである。90年代後半にパラサイト・シングルという言葉が登場し、学校を卒業した後も生活を親に依存する若者？を指して使われた。主に収入と居住費のアンバランスから生じた生活形態であろう。

2つの種類の生物が、互いに相手の存在によって不利益を被る場合を競争関係という。同じ餌を狙うライオンとハイエナの関係である。多くの企業が同一マーケットに向けて競って営業活動を行っている様は、まさに競争である。今回のテーマともなっている共生関係には、片利共生と相利共生の2種があり、それぞれ一方に利益がある関係、双方に利益がある関係とされている。この4つの分類を、単純に我々の社会にあてはめた場合、該当する二者間の利益・不利益だけでそれぞれの関係性を理解することは難しい。

「利益」の価値観も多様で、個（種）のあり方、第三者への影響、地域（生息地）への影響なども加味しなければならない。

### 共生社会に向けて

昨今、共生社会という言葉を目にする。読んで字のごとく、共に生きる～生きることができる社会を指す。ここで言う「共に生きる」を「一緒に、仲良く」だけで語るのには説明不足であろう。前述の寄生関係・競争関係・共生関係を複合して「共生」を理解するべきである。そこには個と社会の様々な関係性がある。これからの共生社会の有り様は、同一の価値観を共有あるいは強制された自他が融合する「共同体」ではなく、人種・性・年齢・障がいなど様々な特性をもった個人が、相互に他者の存在（アイデンティティ）を認め合う多様性の中で実現するものと思われる。社会の構成要素として最も堅固で安定した単位として扱われてきた「家族」の意味さえも、同性同士の婚姻、入籍しない夫婦関係、核家族における高齢者介護など従来の価値観・制度だけでは整理できない事柄が目立っている。差別と表裏一体とも言えるアイデンティティ重視の相互関係を、今後、行政や社会がどのように受け入れていくかが鍵になる。急激な価値観の多様化や社会の変動が、将来的な我々の生活の在り方を問いかけている。

### デザインのできること

話しが難しくなったので話題を研究室に戻し、私の専門分野であるデザインの側面から述べることにする。専門分野は視覚伝達デザイン。グラフィックデザインや広告などを扱う分野である。共生社会の中で、今後ますます必要とされていくのは、ユニバーサルデザイン視点であろう。街中の交通標識などのサインや家電の操作表示などはその代表例で、現状でもかなりの部分、多くの人に安心できる生活環境を提供している。

また、インターネットメディアは、地理的距離にとらわれない新しいコミュニティづくりの可能性を示し、我々の社会生活の範囲を飛躍的に広げてきた。しかし、ここにも注意すべき「個と社会」の関係性はある。それは情報量の差が生活の質や速度の違いとして顕れ、個や社会の価値観が大きく変わり出したことだ。技術の進歩は生活を豊かにしてくれるが、ある時を境にその関係が暗転する例も決して珍しくはない。デザインとは、様々な思いを実態として形づくる過程であると考えているが、時に「人と人」、「人と技術」の良好な関係を築くための「打ち出のアイデア小槌」たらんことを願ってやまない。

## 筆者紹介

在宅看護学領域・准教授。研究テーマは在宅神経難病療養者のQOL、在宅看護の質評価、在宅看護学分野の看護技術教育到達度など。難病患者、がん患者、中重度療養者が、安心して在宅療養を送るためのネットワーク作りをめざしている。また訪問看護師の育成のための講演活動を行っている。



イラスト・メディアデザインコース3年  
笠谷 奈央

## 特集 共生共存 共に在る

皆さんは、訪問看護という言葉を知っていますか？看護学部の学生だったら、授業や実習で知っているという人もいそうですが、それ以外の人にはちょっと馴染みが薄いかもかもしれません。訪問看護は、文字通り病気が障がいなどで自宅で療養をしている人の家を「訪問」して「看護」をする仕事です。

誰でも元気なままですっと過ごしたいと思っていますよね。でも、病気をすれば怪我もします。後遺症が残る場合もあるでしょう。年齢を重ねれば、どこかしら具合の悪いところもでてきます。医療の手が必要になっても、できる限り自分の家で暮らしたいという人は多いはずです。住み慣れた家で、医療と無理なくつきあっていけるようにサポートするのが訪問看護です。

自宅はその人のホームグラウンドです。それが在宅療養の強みにもなります。病院ではほとんど食べられず、がんの痛みで苦しんでいた患者さんが、自宅に戻って好きなものを口に、家族に囲まれて過ごすうちに痛み止めの薬の量が減った、という経験をしたことがあります。そのような時に在宅の力を感じます。

訪問看護のエキスパートに、秋山正子さんという方がいます。NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」に出ているので、知っている方もおられるでしょう。その秋山さん曰く「訪問看護師は隣のおばさんになって」。本物の隣のおばさん

ではなく、おばさん的な雰囲気を持って相手のお宅を訪ねるということです。看護師の鎧を身にまとい自宅に来られても、相手はリラックスできないでしょう。訪問看護師はできるだけ親しみやすく、家庭の空気を壊さないようにすること。それが「隣のおばさん」になることなんだそうです。その一方で、相手や自宅の様子をさりげなく観察して、体の様子、生活や家族の様子を的確に把握して異常の芽を摘み取ります。これが「このおばさん、ただ者ではない」プロたる所以でしょう。

訪問看護の面白さのひとつは、その人の生き方や歴史が丸ごと見えてくるところだと思っています。看護師は受け持ちの患者を理解するために、記録物や会話から必要な情報を集めますが、訪問看護の場合は、自宅を訪問すると情報は向こうから飛び込んできて、実に豊かな情報を与えてくれます。例えば、パーキンソン病は体の自由がきかなくなる難病ですが、この病気の男性のお宅に訪問した時のこと。ベッドの脇に年代物のライカのカメラが置いてあって、埃ひとつ乗っていませんでした。調子の良い時にいつも手に取っているのだろうか、撮影に出られるようになることを目標にしているのだろうか、などと想像しました。また、脳血管疾患の後遺症でほとんど寝たきりの男性のお宅には、発病前でしょうか、夫婦揃って海外旅行の楽しそうな笑顔の

写真がありました。今出会っている男性は胃にチューブを通して寝たきりで言葉を交わすこともできませんが、写真の中の快活そうな笑顔を見ると、その方の人柄がしっかりと伝わってきました。それと共に、寝たきりの夫の介護を支えているのは、夫婦の思い出を過去のものにしてしまわない奥さんの愛情だと理解しました。こうした情報を会話のきっかけにすることもあれば、そのまま胸に納めてくることもあります。その人の生きてきた足跡までを大事にしたケアをしていきたいという気持ちになるものです。

幸か不幸か医療の進歩は、口から食べられなくなっても胃に通したチューブから栄養物を注入して栄養を保つことができます。自分で呼吸ができなくなっても機械が呼吸をさせてくれます。こんなに大変な状況でも自宅で療養できるようになっています。訪問看護はこのような医療処置や機械の管理をサポートする役割がありますが、医療技術が一般家庭に入ってくる中でも、自宅の窓から見慣れた景色に季節の移り変わりを感じたり、家族の顔を見ながらいつもの食事を食べておいしいと思ったりする「暮らし」を大切にしていきたいと思っています。

### お勧めの図書

在宅ケアの不思議な力 / 秋山正子著  
医学書院 2010  
(桑園 開架 492.933/Aki)

筆者紹介

デザイン学部共通教育講師。専門はアメリカ文学、特にアメリカ南部文学、モダニズム期の文学。男女共同参画社会を目指す。20世紀のアメリカの女性作家が、文学作品、視覚芸術作品の中でジェンダー・アイデンティティ、セクシュアリティの問題をどのように表象していったかを分析。ジェンダーの授業も担当している。

## 乙女の祈り



イラスト・メディアデザインコース3年 三沢 可奈

この映画をテレビでついっかり見てしまったのは、テレビ番組欄に載っていたその野暮ったいタイトルが私の目をひきつけたからでした。見てみると、それはタイトルからは想像し難い内容の映画—二人の女子高生が二人の関係（それは友情関係でもあり、同性愛的関係でもある）を守るために、片方の母親を殺害してしまう、という大変ショッキングなストーリーの映画でした。（ちなみに、女子高生の一人が『タイタニック』でブレイク前のケイト・ウィンスレットであることに気がついたのは、映画を見終わった後でした）

タイトルは『乙女の祈り』（1994年、原題は*Heavenly Creatures*。監督は『ロード・オブ・ザ・リング』のピーター・ジャクソン）。舞台は、1950年代半ばのニュージーランド。豊かな家庭の出ではないが、早熟で作家志望のポウリーンは、それ故まわりの女子高生とは話があわず、孤高を保つ。そこに同じく早熟で作家志望のジュリエット（彼女はカンタベリー大学の学長の娘であった）が転校して来る。まわりの普通の女子高生とは考えも趣味もあわない二人はすぐに意気投合。しかしその二人の仲に危うさ、特に社会ではタブーであった同性愛の存在を感じとった親たちは、二人の関係を裂こうとする。そのうちジュリエットの両親が離婚することになり、ジュリエットは南アフリカへ行くことに。なんとしても

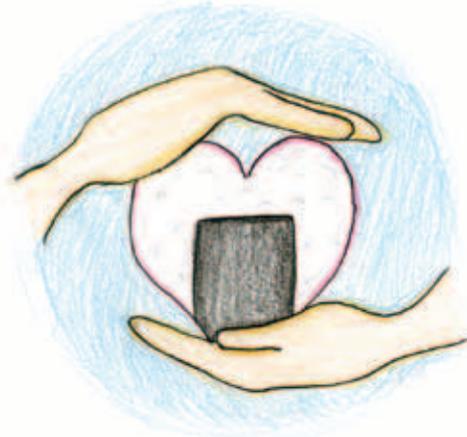
彼女と離れたくないポウリーンは自身の南アフリカ行きを障害となっている母をジュリエットの協力のもと殺害し、結果二人は逮捕される。（実はこの話はニュージーランドで実際にあった事件がもとになっています）

この映画は少女の内面の純真さと残酷さを見事に描いた作品として高く評価されているようです。確かにそういう面もありますが、私はこの映画から読み取るべきことは、いかに少女が親（特に母親）という存在を乗り越えて自立していくことが困難であるか、また親と子であっても調和した共生関係を築くのはいかに容易ではないか、ということだと思えます。人間は簡単に自立した存在にはなれません。生まれて歩き始めるのにも時間がかかるし、さらに「大人」と呼ばれる存在になるには15年から20年あまりの時間（いや、もっと？）を必要とします。その間親と子は共生共存しつつも、子はいずれそこから独立していかねばなりません。ポウリーンはなりたい自分になるために、親をも殺害せねばなりません。親と子はお互いに自分自身の延長線上に存在していながらも、全くの他者でもあります。他者としての違いを乗り越えて、一人の独立した人間になっていく、それにはとても大きなエネルギーを必要とする（場合もある）ということ、この映画は象徴的に語っているように思えます。

今回この特集のテーマは「共生共存」です。近年さまざまな事情から、人と人、人と自然、人と社会の共存のあり方を多くの人が模索しています。しかしこういった状況は、人間にまつわる共生共存が容易ではないということを示しているようにも思えます。人間は一人一人、親子でさえも相当違っている複雑な生き物です。（ポウリーンがジュリエットにあれほど魅かれたのは、たまたまジュリエットが母親とは全く違い、自分との類似点を多く持っていたからでしょう）その複雑さが人間の存在理由でもあるような気がしますが、いずれにしても、他者との違いを認め、他者との共生に存在する困難を見つめつつ、それを乗り越え共に生きるべき道を模索していくことが大事ではないかと考えます。

実はこの原稿は、かつて高専時代に書いた映画評がもとになっています。（確かその原稿はお蔵入りになったはず…）あれから10年以上の歳月がすぎ、私自身もティーンエイジャーの娘を持つ母となりました。乙女の時代はるか昔、おばさんとなった今、自戒もこめて(?)原稿を書き直してみました。

## おむすびで、縁むすび



筆者紹介  
小児看護学領域・准教授。研究テーマは広域医療圏に居住する障害児の在宅ケアネットワークモデルの構築、実習環境の変化にともなう実習到達度と実習形態など。看護学部学生のラーニングポートフォリオの普及にエネルギーを取り組んでいる。

イラスト・メディアデザインコース3年 神坂 知春

皆さんは「ガイアシンフォニー（地球交響曲）」というドキュメンタリー映画を見たことがあるだろうか。イギリスの生物物理学者ジェームズ・ラブロック博士の唱えるガイア理論「地球はそれ自体が一つの生命体である」という考え方に基づき制作された映画で、1992年に第一番が公開され、現在、第七番（2010年）まで公開されている。その第二番（1995年）に登場する佐藤初女さんの本を紹介したいと思う。

佐藤さんは、心を病んだり苦しみを抱えた人たちに、それを受け止めてくれる人と場所が必要だとの思いから、青森県の岩木山の麓に「森のイスキア」という家を建てた。そこを訪れた人は、手作りの梅干し入りのおむすびや季節の食材でおもてなしを受け、生きる気力を自ら見つけて帰っていく。

私が青森で仕事をしていた当時、すでに第二番の映画が公開されており、佐藤初女さんは県内では、かなりの有名人であった。講演を聞く機会があり、壇上には、物腰の柔らかい品のいい70代の女性が立っていた。講演では、彼女の作ったおしんこが振る舞われ、食べることは、その食材の「いのち」をいただくこと、つまり、食材となる自然のいのちに料理という手を加えながら、そのもとのいのちを新しく生かしていくのだと話されていた。講演を聞き、「いただきます」の意味を改めて考えるとともに、この人の半

生を読んでみたくなり購入したのがこの本である。

彼女の人生は10代で肺を患い長期の療養生活を送ったり、26歳も歳の離れた男性との結婚など波瀾万丈である。30代の時に教会で洗礼を受け、夫の死後、奉仕に生きようとした時、「他人を生かすことによって自分も生かされる」ということに気づき、多くの人と出会い、共に心を通わせあって生きることが生涯をかけた使命だと考える。その実践から「森のイスキア」が誕生していくことが読み進めるとわかってくる。しかし、この本は、宗教とか信仰を持つことを勧めているのではなく、自然や人と共に生き、共に存在することの大切さを伝えている。

彼女の、食材となる自然のいのちをおいしく食べさせたいという心が、自然のいのちと人のいのちを繋いでいく。一粒の米が集まっておむすびとなり、そのおむすびは食べた人に生きる意欲と勇気を与えている。食材のいのちが料理に、そして食べた人へと移しかえられて、縁となって繋がっていく。彼女と関わったことのある人々は、人であれ料理の素材であれ、いのちあるものと接するときには精いっぱい心を使って感じ常に心を通わせることを大切にしているという彼女の強さに惹かれ、癒やされていくのだろう。

第1章の鏡文に、「私、「面倒くさい」というのが一番いやなんです。ある線ま

では誰でもやること。そこを一步超えるか超えないかで、人の心に響いたり響かなかったりすると思うので、この辺でいだろうというところを一步、もう一步超えて。ですからお手伝いいただき、『面倒くさいからこのくらいでいいんじゃない』っていわれるととても寂しく感じるので。」とある。

耳の痛い言葉ではあるが、「面倒くさい」と思うことは、人とある一線で距離を置いてしまったり、大切にするという気持ちを薄めてしまう行動に繋がっている。今の世の中、簡単に、手軽に…が主流の時代になった。その裏には「面倒くさい」が潜んでいて、「大切に」するための手間暇が削がれている気がしてならない。面倒くさいと思わずに、一步踏み出して、自然や人などの「いのちあるもの」に心を使い、心通わせた関わりを持つことが、共に生き共に存在するために必要な力なのではないかと思う。

佐藤さんは今も「森のイスキア」でおむすびを握って、訪れる人のおもてなしを続けている。みなさんもちょっと心が辛いとか、周囲とのつながりが苦しかった時に、おにぎりを食べに訪れてみませんか？

## お勧めの図書

おむすびの祈り：「いのち」と「癒し」の歳時記/佐藤初女著

PHP研究所 1997



イラスト・メディアデザインコース3年 神坂 知春

## 本と私

札幌市立大学デザイン学部1年  
朝倉 絵里

朝、何気なくテレビを見ているとあるニュースが目にとまりました。「電子書籍大手 キンドル日本参入」というもので、テレビの中のアナウンサーたちは製品を紹介しながら、「これからの読書のあり方が、変化するかもしれませんね」などと話していました。

確かに、電子書籍は多くの本を持ち歩くことができ、わざわざ本屋に行かなくても簡単に本が読めるという点では紙の書籍よりも便利かもしれません。また、文字を大きくしたり、自分の読みやすいように行間なども調節できるようになっています。しかし、小学生のころから本が大好きだった私にとって、紙の書籍はなくてはならないものとなっています。ここではあらためて、紙の本の魅力について、私個人のエピソードを交えながら、考えてみたいと思います。

私が本を好きになったきっかけは、第一には物語の面白さです。家にいても、教室にいても、本を読んでいる間だけは、自分が行ったことのないところへ行ったり、たくさん冒険をしたり、だれもが物語の主人公になれます。例えるなら、私にとって本はそんな世界に連れて行ってくれる「特別な扉」でした。おかげさ

かかもしれませんが、私は物語が本を開く所から始まると思っています。表紙をめくり、ページが進むにつれて自分が話の中に入ってしまう感覚は、指一本で簡単にページがめくれてしまう電子書籍では味わえないものです。ページをめくり自分で話を進めるという行為が、自分が主人公になれる感覚を後押ししているからかもしれません。

自分がどこのページを読んでいるかが一目でわかるというのも重要な所だと思います。分厚い本を読み終えたときの達成感や自分で行間やフォントを調節でき、その都度ページ数が変わってしまう電子書籍では味わえないことです。物語の終盤が近づくと、今後の展開がどうなるのか、より一層ドキドキします。

さらに電子書籍ではできないこととして、本の装丁があります。装丁は本を人に伝えるという大切な意味をもっています。カバーのデザイン、紙やしおりの種類、タイトルや作者名のフォントはもちろんなこと、本文の一語一句の間まで、読む人に話の面白さが最大限伝わるように工夫されています。そして、本は「多くの人の手に本がわたってほしい」という書店員さんの思いが詰まった帯を巻か

れて、書店に並ぶのです。作者から読者まで、さまざまな思いを込められて本は作られています。そんな本だからこそ、気に入った本はたとえかさばっても本棚に入れておきたいと思うのでしょうか。電子書籍はどんなに多くても端末一本で済みますが、どれも同じ価値に思え、形がないので読み終わったら簡単に消してしまえるし、宝物のように本をしまっておくという感覚は無くなってしまふかもしれません。本は話の内容だけではなく、帯やカバーデザインからページ数まですべてを含めて一つの作品ではないかと思いました。

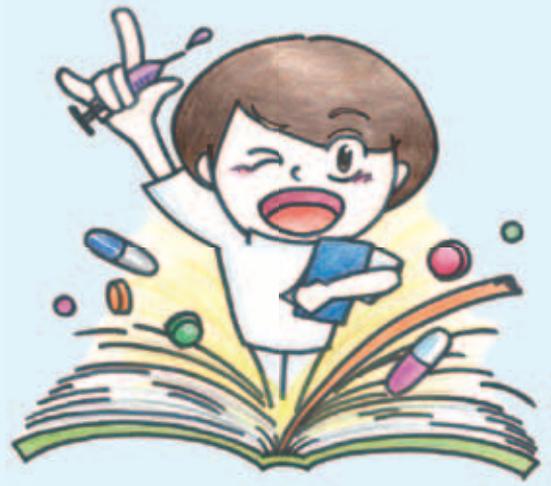
などと色々述べましたが、もちろんこれは個人の主観で、スマートフォンユーザーが増えている現代には電子書籍は少しずつ広まって行くことは間違いのないでしょう。しかしどんなものにも長所短所はあります。安易にどちらを否定してしまうのではなく、双方のよいところを残していくのが大切だと思います。

どんな形であれ、過去から今まで、様々な人に多くのことを教えてくれた本が遠い未来まで、ずっと残っているといいなと思いつつ、今日も私は本のページをめくっています。

## ある一冊の本との出会い

札幌市立大学看護学部3年

市戸 優人



イラスト・メディアデザインコース3年 河原美由紀

私が本を読み始めたのは中学生の時である。私は漫画以外の本を手にとることもなく、図書館に行く目的と言えば、一角の隅にある漫画目当てであった。そんな私に本を手にとるきっかけを与えたのが「朝読書」であった。いつ始まったか詳しくは覚えていない、新学期の始まりだったのだろうか。私は何を読んだらよいのか分からず、家にあった「赤川次郎」のシリーズ作である「三毛猫ホームズ」を手に取り読み始めた。これが私と小説との衝撃的な出会いであった。私は小説にのめり込んでしまったのであった。本は私に今まで経験した事のないわくわく感やドキドキ感、また活字のみで読み進めるがゆえの想像による楽しみを与えてくれた。私はこの後様々な小説を読むこととなる。その中でも特に私を楽しませてくれるのが、世間で知らない人はいない「村上春樹」である。彼の世界は本当に面白い。一人一人の登場人物に豊かな個性があり、様々な視点から物語を進めていく。そして最後は読者を考えさせ、想像させるような締めくりとなっている。初めて読む人は混乱するのではないだろうか、私は彼が何を読者に語りかけているのかいまだに分からない本が数冊ある。私は毎回村

上春樹さんの作品を読んだ後、身体が宙に浮いた感じがして、「自分は今何をしているのか」、全身の感覚が敏感になり、すべてのものが私を刺激する。そんな彼の世界に入り込んでしまうのである。

私が感銘を受けたある一冊の本を紹介しよう。「村上スキーム-地域医療再生の方程式」である。作者は村上智彦氏、地域医療を専門分野とする医師である。私が彼の本と出会ったのは高校二年生の冬、理学療法士を目指していた時だった。私はある時、担任の先生から「村上医師」のお話を聞き、本を薦められて読むこととなった。これが私を保健師の道へと導く大きなきっかけとなったのである。村上医師は、「地域医療とは、住民の健康に対する意識を高めることであり、そのことによって病気の人は減るし、医療費も低くなる。大きな病院を作って医者を雇って地域医療の出来上がり、そんなばかげた話があるはずが無い。」という考えを持ち、健康づくりをはじめ、医療機関と行政や住民が共同した町づくりを目指していた。そして実際に旧瀬棚町や夕張で保健師や住民とともに町ぐるみの健康づくりの実践を行い、市民の健康の向上に寄与したことが対談方式で記載されている。

私はこの本を読み現代の人々の健康意識と地域医療に興味を持った。そして「地域医療に最も関わることのできる職業とは??」「住民と密接にかかわることができ、住民の健康維持・増進に直接関わることが出来る職業は??」と考えた時に保健師が浮かび上がったのである。私にとって本の中の村上先生との出会いは、地域医療についての興味をかきたて、進路を決定づけるものとなった。

皆さんもいろんな本を読んでみることをお勧めする。いつか必ず「あなたを変える素晴らしい本」と出会うはずだから。

### 参考文献

村上スキーム：地域医療再生の方程式：夕張／医療／教育／村上智彦、三井貴之著  
エイチエス 2008  
(桑園 開架 498.13/Mur)

## 終末のフール

伊坂幸太郎著 集英社 2006  
芸術の森 2F 開架 913.6/lisa

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 三浦 希望

この短編集「終末のフール」の登場人物は、世界が終わることを告げられ、限られた時間を生きているはずなのに、この先もずっと生きていくように、いつもの毎日を過ごしていて、家族や近所の人々に対しての思いやりにも溢れています。

自分ならどうするだろうと考えざるをえない設定にも関わらず、主人公たちは重い状況の世界を、自分たちなりに生きています。そんな主人公たちが、あるとき交わした誰かとの会話が伏線になっていて、後々主人公たちが一歩を踏み出すのに大きな力を与えてくれます。読んでいる私までも、さりげなく元気になるような言葉があるので、暗い設定も越えていける気持ちになります。私が伊坂幸太郎の小説で好きなところは、会話が実はすごく重要なことなのに、当の主人公たちは妙に淡々としているところだったりします。

短編のひとつ「冬眠のガール」に、両親が先立たれた女の子が、読書好きの父親が書齋に残した2000冊の本を

全て読破し、その後スーパーで出会った人たちとの会話から、恋人を作るという新しい目標に向かうところがあります。父親が残したビジネス書を参考にしながらというので、なんだか微笑ましくなります。

大事件は起きません。だからこそ、主人公たちが乗り越えていく日常の出来事に共感し、特になんでもない会話を身近にいる人として、おいしいものを食べたりする毎日が、大切なことなのだと気づかされます。

伊坂幸太郎の小説をたくさん読まれている方は、すでにご存じかと思いますが、伊坂幸太郎の作品には、別の小説に同じ登場人物が出てきたり、リンクが貼られていることがあります。実は、この「終末のフール」の中に登場してくるテレビドラマが、全く別の小説にも登場しています。そんなところも、気にしながら読んでみると楽しいかもしれません。



イラスト・メディアデザインコース3年 笠谷 奈央

## キッチン

吉本ばなな著 新潮社 2002  
桑園 文庫・新書 913.6/Yos

桑園キャンパス・ライブラリー司書 高杉 沙里

「私がこの世でいちばん好きな場所は台所だと思う。」初めてこの冒頭を読んだとき、あ、これは好きになる…と思ったことを今もよく覚えています。

みなさんは、そのような直観的な本との出会いはないでしょうか？私にとってこの小説は、そんな風に出会い、お気に入りになった1冊です。そのせいなのか、単なる貧困な語彙力のせいなのか…よくわかりませんが、人に薦めるものの、お薦めポイントを聞かれるといつも返答に困ります。

お薦めポイント？…読み終えると無性にカツ丼が食べたくなりますよ、とか？…秋冬に読みたくなる感じですよ、とか？そんな言葉しか思いつかず、挙句、とりあえず読んでみたらどうかねという事態になってしまいます。

ということで、この機会によく考えてみたところ、そういえば読後感はずっと、じんわりくるわぁ…とまっていることに気付きました。どうやら、このじんわりというのが、自分の中では今のところじっくりくる言葉のようです。

物語の始まりは、唯一の肉親を失った直後からという、いかにも暗くなってしまいがちな設定ですが、台所要素を絶妙に織り込みながら、ふんわりとそして淡々と物語が展開されていきます。

そして、先ほどカツ丼について少し触れましたが、この場面がまた素敵なのです。主人公たちが前進するには、夜中に絶品のカツ丼を持って旅館の外壁をよじ登る必要があるのですが、一見、不自然で笑ってしまうような場面も、するりと心に入り込んでいきます。

結果、読み終える頃には、ゆるやかな余韻に満たされる…じんわり…というわけです。さらに最終的には、物語全体に散りばめられた台所というキーワードになるほど、となります。これが、著者の初作品ということですから驚きです。

ぜひこの小説を読んで、じんわり感とカツ丼感、ゆっくりと味わってみてください。

館外貸出ランキング

**NO.1** 舟を編む  
三浦しん著. 光文社, 2011.  
芸術の森 2F 開架 913.6/Miu

総評

本屋大賞を受賞した「舟を編む」が去年の4位から順位を上げ、1位となりました。小説の他、イラストやデザイン系など学部に関係する本が全体の半数を占めており、デザイン学部に対応しいランキングとなりました。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 櫻田 理愛)

スーパーマンガデッサン：  
作画のための考えるデッサン  
松本剛彦, 森田和明画; 林晃文.  
グラフィック社, 2005.  
芸術の森 2F 開架 726.1/Mat

県庁おもてなし課  
有川浩著. 角川書店, 2011.  
芸術の森 2F 開架 913.6/Ari

Autodesk 3ds max オフィシャルトレーニングブック  
：基本操作と3つの事例演習：Autodesk公認。  
ワークスコーポレーション, 2007.  
芸術の森 2F 開架 007.642/Aut

イラストのこと, キャラクターデザインのこと。  
= Illustration & character design  
坂崎千春著。  
ビー・エヌ・エヌ新社, 2011.  
芸術の森 2F 開架 674.3/Sak

1Q84 (ichi-kew-hachiyon) : a novel ; book 3  
村上春樹著. 新潮社, 2009.  
芸術の森 2F 開架 913.6/Mur/3

コミュニティデザイン：  
人がつながるしくみをつくる  
山崎亮著. 学芸出版社, 2011.  
芸術の森 2F 開架 318.8/Yam

四畳半神話大系  
森見登美彦著。  
太田出版, 2005.  
芸術の森 2F 開架 913.6/Mor

実践SolidWorks：よくわかる3次元CADシステム / アドライズ編。  
日刊工業新聞社, 2008.  
芸術の森 2F 開架 501.8/Adr

西洋美術史：カラー版  
美術出版社編集部, 藤原えりみ編集。  
増補新装. 美術出版社, 2002.  
芸術の森 2F 開架 702.3/Sei

館内視聴ランキング

**NO.1** The King's speech  
directed by Tom Hooper  
screenplay by David Seidler. collector's ed.  
ワーナー・ホーム・ビデオ [distributor], 2011. v.  
芸術の森 1F AV 778/Kin

総評

幼少から吃音症に悩む英国王ジョージ6世がコンプレックスを克服し、国民に敬愛される国王になった実話「The King's speech」が1位となりました。「秒速5センチメートル」が去年と同じく2位と健闘し、「Toy story」シリーズも人気でした。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 櫻田 理愛)

秒速5センチメートル  
新海誠原作・脚本・監督。  
コミックス・ウェブ・フィルム,  
2008. v.  
芸術の森 1F AV 778.77/Byo

Toy story ; 3  
ジョン・ラセター監督。  
ブエナビスタホームエンターテイメント (発売), 200-. (Disney DVD ; Disney Pixar) .v.  
芸術の森 1F AV 778.77/Toy/3

告白  
中島哲也監督・脚本; 湊かなえ原作。  
完全版. 東宝 (発売), 2011. v.  
芸術の森 1F AV 778/Kok

ショーシャンクの空に  
フランク・ダラボン監督・脚本; スティーヴン・キング原作; ニキマーヴィン製作。  
松竹 (発売・販売), 1994. v.  
芸術の森 1F AV 778/Sha

アニー・ホール  
ウディ・アレン監督・脚本; マーシャル・ブリックマン共同脚本。ソニーピクチャーズエンターテイメント (発売), 2002.  
芸術の森 1F AV 778/Ann

Toilet  
directed by Naoko Ogiwara.  
ポニーキャニオン [distributor], 2011. v.  
芸術の森 1F AV 778/Toi

Toy story ; 1  
ジョン・ラセター監督。ブエナビスタホームエンターテイメント (発売), 200-. (Disney DVD ; Disney Pixar) .v.  
芸術の森 1F AV 778.77/Toy/1

Toy story ; 2  
ジョン・ラセター監督。ブエナビスタホームエンターテイメント (発売), 200-. (Disney DVD ; Disney Pixar) .v.  
芸術の森 1F AV 778.77/Toy/2

シンドラーのリスト=Schindler's list  
スティーヴン・スピルバーグ監督; スティーヴン・ザイリアン脚本; トーマス・キナーン原作。ユニバーサルピクチャーズ・ジャパン (発売), 2004. v.  
芸術の森 1F AV 778/Sch

附属図書館 貸出・視聴ランキング

貸出日：2011/10/1 ~ 2012/9/30

館外貸出ランキング (看護学)

**NO.1** 病期・病態・重症度からみた  
疾患別看護過程+病態関連図  
井上智子, 佐藤千史編集. 医学書院, 2008.  
桑園 開架 492.914/Ino

総評

この1冊さえあれば!! 臨床実習必携の疾患別看護過程関連図書が上位独占です。学年を問わず借りられています。厚さをもとめせず持ち歩く学生の姿が浮かびますね。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 逢坂 弘子)

疾患別看護過程の展開  
山口瑞穂子, 関口恵子監修。  
第3版. 学研, 2008.  
桑園 開架 492.914/Shi

生活機能からみた老年看護過程：  
+病態・生活機能関連図  
山田律子, 井出訓編集。  
医学書院, 2008.  
桑園 開架 492.929/Yam

根拠がわかる疾患別看護過程：病態生理と実践がみえる：関連図と事例展開  
新見明子編集. 南江堂, 2010.  
桑園 開架 492.914/Nii

発達段階からみた  
小児看護過程+病態関連図  
石黒彩子, 浅野みどり編集。  
医学書院, 2008.  
桑園 開架 492.925/Ish

ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図  
佐世正勝, 石村由利子編。  
医学書院, 2009.  
桑園 開架 492.92/Sas

「意味づけ」「認知」でわかる病態生理看護過程：  
エキスパートが持つ知恵と認知をマスター上巻  
昭和大学病院看護部, 石橋悦子編集。  
日経研出版, 2006.  
桑園 開架 492.914/Sho/上

個性性を重視した認知症患者のケア  
松下正明, 金川克子監修。  
改訂版. 医学芸術社, 2007.  
桑園 開架 492.929/Kob

ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：同一事例による比較  
渡邊トシ子編集. 第2版。  
ヌーヴェルヒロカワ, 2003.  
桑園 開架 492.913/Wat

疾患別病態関連マップ  
山口瑞穂子, 関口恵子監修。  
第3版. 学研, 2008.  
桑園 開架 492.914/Shi

館外貸出ランキング (文学)

**NO.1** わたし、生きるからね：  
重度障がいとガンを超えて  
小山内美智子著. 岩波書店, 2009.  
桑園 開架 916/Osa

総評

闘病記「わたし、生きるからね」が1位となりました。課題レポートのための利用が多かったようです。2位以下は映像化作品やエンターテインメント系作品が人気を集める中、「星の王子さま」が7位にランクイン。時代を超えて読み継がれている名作です。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 高田 梨絵)

ツレがうつになりました。  
細川昭々著. 幻冬舎, 2006.  
桑園 開架 916/Hos

九つの、物語  
橋本紡著。  
集英社, 2011. (集英社文庫).  
桑園 文庫・新書 913.6/Has

パラシュート  
山田悠介著。  
幻冬舎, 2011. (幻冬舎文庫).  
桑園 文庫・新書 913.6/Yam

1Q84 (ichi-kew-hachiyon) : a novel ; book 1  
村上春樹著。  
新潮社, 2009.  
桑園 開架 913.6/Mur/1

パラレルワールド・ラプストリー  
東野圭吾著。  
講談社, 1998. (講談社文庫).  
桑園 文庫・新書 913.6/Hig

星の王子さま  
サンテグジュペリ作; 内藤濯訳。  
オリジナル版. 岩波書店, 2000.  
桑園 開架 953/Sai

その後のツレがうつになりました。  
細川昭々著. 幻冬舎, 2007.  
桑園 開架 916/Hos

シアター！  
有川浩著. アスキー・メディアワークス, 2009. (メディアワークス文庫).  
桑園 文庫・新書 913.6/Ari/1

おっぴいの詩(うた)：21歳の私が、どうして乳がんには？  
大原まゆ著. 講談社, 2005.  
桑園 開架 916/Oha

## 芸術の森キャンパス・ライブラリー 大型企画

芸術の森キャンパス・ライブラリーでは今年、下記の大型企画展示を開催しました。  
両企画は従来の入館制限を適用せず、広く学外の方にも来館していただけるようにしました。  
どちらも芸術の森キャンパス・ライブラリーの所蔵図書をアピールする良い機会となりました。

### アートブックフェア 2012『ごろごろロゴ。』

2012年11月1日(水)～11月22日(木)

アートブックフェアとは、毎年秋に開催される札幌のアートシーン活性化プロジェクト『さっぽろアートステージ』の特別企画です。3度目の参加となる今年は『ごろごろロゴ。』という展示テーマを設け、本学のロゴマーク作成者である John Warwicker 氏の関連図書や、ロゴマークに関する資料を展示しました。

展示レイアウトは武田先生・長谷川先生にご協力いただきました。見栄えのするレイアウトに、たくさんの利用者が足を止めていました。地域連携課・学生課に協力を得て収集した、本学ロゴマークを使用したグッズの展示も好評でした。また、John Warwicker 氏の所属する創作集団「TOMATO」から着想を得、司書と学生アルバイトでトマトの折り紙オブジェを作成し、展示スペース各所に飾りました。

アートブックフェアの開催模様は、『さっぽろアートステージ2012』公式サイトスタッフブログ (<http://www.s-artstage.com/2012/news/2012/11/468/>) から見る事が出来ます。札幌市立大学だけでなく他の団体の開催模様も掲載されておりますので、ぜひご覧下さい。



アートブックフェアの様様



アートブックフェア告知ポスター  
デザイン学部メディアコース3年  
小坂 友梨さん作成

### 企画展示『福田さん、椅子になって休もう』

2012年7月17日(火)～8月16日(木)



企画展示告知ポスター  
デザイン学部製品コース4年  
小松 英之さん作成

『北海道地区大学図書館職員研究集会』の本校での開催を受け、札幌芸術の森美術館と初の連動企画を開催しました。白羽の矢を立てたのは、没後初めての全国巡回展である『ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展』。

企画展テーマは、札幌芸術の森野外美術館に収蔵している福田繁雄氏の彫刻作品「椅子になって休もう」から想起しました。この彫刻をモチーフとしたペーパークラフト・オブジェも作成し、展示スペース各所に飾りました。福田繁雄氏の関連図書、影響を受けたエッシャー、ブルーノの作品を始め、当館ならではのデザイン関連本を展示しました。

図書館長の中原先生、武田先生には展示レイアウトのアドバイスをいただきました。また、那須先生のご協力のもと、学生棟にあるデザインングチェア9点を作品インデックスとともに配置しました。このチェアは現在も図書館に配置されています。

本企画のポスターやチラシは、札幌芸術の森美術館はもちろん、書店や教育機関、芸術の森地区まちづくりセンターなどにも置かせていただきました。

研究集会に参加された道内大学図書館員及び中学校の美術部の皆様も来館され、さすが美術大学の企画だと好評でした。

(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 金田一瑞穂・中川むつ子)



ちょっと待って!!

# ILL文献複写・現物貸借依頼前の確認ポイント



本学図書館に必要な資料がない場合、ILL (図書館間相互貸借システム)を利用して、他大学から資料を取寄せることができます。

文献複写・現物貸借依頼数は年々増加しておりますが、同時に「図書館所蔵」「ネット上で全文閲覧可」などの理由により、依頼キャンセル数も増加しています。そこで、依頼の前に必ず確認してほしい2つのポイントをご案内いたします。

## 文献複写・現物貸借依頼前の確認ポイント

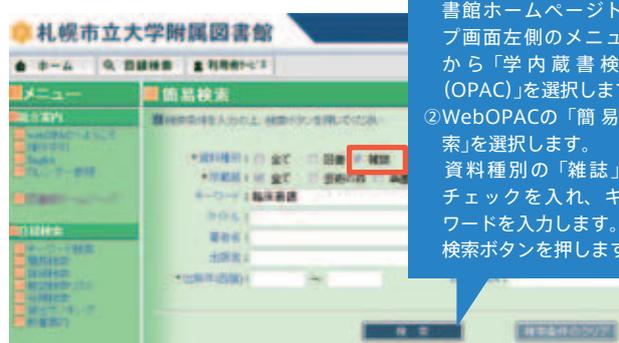
1. WebOPACで所蔵を確認していますか？
2. 医中誌WebやCiNiiなどでPDFが公開されていませんか？

### 1. WebOPACでの所蔵確認

1



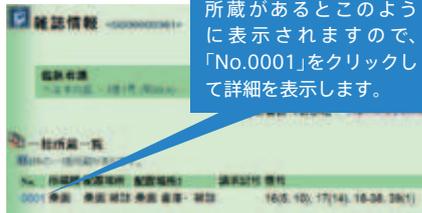
2



① 札幌市立大学附属図書館ホームページトップ画面左側のメニューから「学内蔵書検索 (OPAC)」を選択します。

② WebOPACの「簡易検索」を選択します。資料種別の「雑誌」にチェックを入れ、キーワードを入力します。検索ボタンを押します。

3



所蔵がある则表示されますので、「No.0001」をクリックして詳細を表示します。

4



必要な巻号を入力して検索することもできます。

### 2. 医中誌WebやCiNiiなどでの確認

1



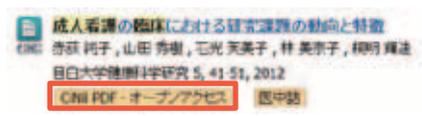
2



① 札幌市立大学附属図書館ホームページトップ画面左側のメニューから「データベース検索 (学内限定)」を選択します。

② データベース検索 (学内限定) 画面にあるCiNii・医中誌Webをそれぞれクリックします。検索結果にリンクがあればPDFで全文を閲覧できます (一部有料)。

※ このアイコンをクリックするとWebOPACで所蔵を確認できます。



(CiNii)



(医中誌Web)

(桑園キャンパス・ライブラリー司書 岩間明生子・神村沙矢香)

## リクエストをお寄せ下さい

教養を養うための本であれば勉強に関するものでなくてもリクエストできます。一定の購入基準があり、ご希望に沿えない場合があります。

#### 作者のことば 岡田 大岬「靈脩」について

《靈脩》(れいしゅう)とは、中国古代の歌謡集『楚辞』の中心となった屈原(前343?—前221?)という人の歌に見られる言葉。山鬼(=山の女神)が、人間の男性とデートの約束をして出かけるが、遅刻して男性に会えず、悲しみに沈む…そんな一節から。

東風飄りて 神靈雨ふらす  
靈脩を留めて憶として帰るを忘れしめん

《靈脩》は、「すぐれた人」、ここでは相手の男性を指している。「今日会えなかった素敵なあの方を、私の側に引き止めて安らぎを与え、家に帰るのを忘れさせてしまいたい」。なお、屈原についての参考文献としては、平凡社『漢詩を読む①』(2012)がある。

#### 岡田 大岬(おかだ たいこう)

北海道を代表する書家。岬土社主宰。北海道大学総合博物館資料部研究員。北海道大学総合博物館や北海道大学病院などに作品が収蔵。

## 札幌市立大学 附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

### 編集後記 ▶ デザイン学部 武田 亘明

世界のあちこちで争いは絶えず、今日も最も弱い者が逃げ惑う。無関心は貧困となって人々の心と身体を蝕む。力の格差は多種多様な生き物の間にまで及んでいる。第6号の特集は「共生共存」。人は一人では生きて行けない。だから、連れ合い、家族をつくり、町をつくり、社会をつくってきた。天地の恵みを受けながらその命をつないできた。今、人に恋いこがれ平安な暮らしを求めて、あらためて人と人、社会と自然、地球と環境について考えてみたい。

持続可能な真の豊かさとは何か。何を守っていくべきかを正しく判断する力と変えるべきことを断固として変える勇気が欲しい。寄せられた文章により「共生共存」についていろいろな角度から考える機会を与えられたことに感謝。自分自身と暮らし方、心と身体の健康、社会システム、エネルギー、コミュニケーション、都市の姿、そして新しい価値について、今一度立ち止まり、しっかり考え、一人ひとりが新たな一歩を踏み出す機会となることを願って。

### 札幌市立大学附属図書館ニューズレター のほほん第6号

編集 札幌市立大学図書館運営会議  
編集委員 武田 亘明 長谷川 聡  
清水 光子 藤井 瑞恵

発行日 2013年2月1日

発行 札幌市立大学附属図書館  
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目  
事務局 地域連携課 図書館担当  
TEL.011-592-2346

制作・印刷 株式会社 プリプレス・センター

ご感想をお聞かせください。  
library@scu.ac.jp